

日本農業新聞で紹介された【Meiji Seika ファルマ】

日本農業新聞(2015年2月23日)の記事に、「オリゼメート」シリーズの商品(Meiji Seika ファルマ) が紹介されました。

(第3種郵便物認可)

主力事業の医薬品をはじめ、農薬、動物薬を開発、販売するMeiji Seikaファルマ(東京都中央区)は、カビや細菌などから製剤の有効成分を見つけて開発を進める。社を代表するいち病防除剤「オリゼメート」は、植物に抵抗性を持たせるため、薬剤耐性菌が発生せず、販売から40年経ったいまも使われるロングヒット商品だ。同社は作物の安定生産に向け、「オリゼメート」に続く特徴のある製品の開発、販売を手掛ける。

2011年に、明治ホールディングスのグループ事業再編によって設立。製剤化する有効成分は、基本的に微生物などから探し、化学構造を変化させて効果を高める。研究成果は、農薬や動物薬、医薬品の三事業で共有することで、幅広い

日本農業新

Meiji Seikaファルマ(東京)

水稲防除剤に強み 直播栽培用開発も計画

視野で開発につなげる。「オリゼメート」は、前身の明治製菓が75年に発売した、世界で最初に開発した植物への抵抗性誘導剤。当初は菌に作用する殺菌剤を指していたが、開発途中で、植物への抵抗性誘導が分かり、製剤化した。

有効成分のプロバナンノールは植物に作用して、抗菌物質の生成や、菌の感染を阻止するための細胞壁の強化、菌に感染した細胞の死滅促進など、植物の抵抗力を高める。植物体の免疫を強くして防除するため、一般的な殺菌剤と違い、薬剤耐性菌が発生しない。

98年には箱処理剤を販売。殺虫剤との混合剤も開発、販売する。「オリゼメート」シリーズは、13年までに累計1411万粒の農地で使われたと試算。特にいち病被害が多い東日本

や日本海側で普及する。農薬資材部の斎藤好明シニアアドバイザー(SA)は「安定した効果で、世代が変わっても使い続ける農家が多い」という。今後は「オリゼメート」関連で、直播(ちよくは)栽培に向く薬剤の開発も計画する。

「オリゼメート」に続く商品として期待するのが、会社設立と同時に発売した非選択性除草剤「サクサ」。土壌中での薬剤成分の分解が早い。同社のオリジナル剤で、販売されている非選択性除草剤では唯一、国内で開発された製品だ。

さらなるヒット商品の開発を目指し、得意分野の殺菌剤でも新剤開発に力を入れる。斎藤SAは「生産者の要望にこたえる製品を販売したい。培った開発力で、わが社ならではの農業を作っていく」と話す。



ヒット商品「オリゼメート」をはじめ、同社ならではの農業開発に力を入れる(東京都中央区で)

■会社概要＝2011年設立。従業員4056人(連結グループ会社含む)。売り上げ1351億500万円。
■所在地＝東京都中央区京橋2の4の16、(電)03(3273)3539。

会社 フォーカス

- オリゼメート粒剤 3kg (8袋/箱)
- Dr.オリゼフェルテラ粒 1kg (12袋/箱)・3kg (8袋/箱)
- ファーストオリゼフェルテラ粒 3kg (8袋/箱)・10kg